

スプリンクラー設置の動向

小規模グループホームのスプリンクラー設備については、これまで季刊グループホーム 48号(p26)、49号(p22)でお伝えしておりますので、その内容を確認の上、その後の消防設備の動向についてお読みください。

- ①パッケージ型自動消火設備Ⅰ型(10,000㎡未満対応型)にエスピーアウル(初田製作所)が発売されています。
- ②パッケージ型自動消火設備Ⅱ型については、最近、内装制限を受けない消火容量320の機種、エスピーアウルミニ(初田製作所)が発売されましたが、現在のところ販売実績がほとんどなく、価格や実際の設計工事費用等がわかりません。
- ③面積が275㎡以下の小規模施設用の機種として、モリタ宮田工業がスプリネックスⅠ型の小型版を開発しており、容量1080の機種(スプリネックスミドル)発売の準備をすすめているとの情報があります。

現在あるスプリンクラー設備の種類

		(設置可能面積)	0㎡	275㎡	1000㎡	10000㎡
スプリンクラー設備			→			
動 消 火 設 備 Ⅰ 型 自	パ ツ ケ ー ジ 型	10,000㎡未満対応型 スプリネックス(モリタ宮田) エスピーアウル(初田製作所)	→			
	Ⅰ 型 自	1,000㎡未満対応型 スプリネックス緩和型(モリタ宮田)	→			
特定施設水道連結型スプリンクラー設備			→			
動 消 火 装 置 Ⅱ 型 自	パ ツ ケ ー ジ 型	内装制限あり スプリネックスミニ(モリタ宮田)	→			
	Ⅱ 型 自	内装制限あり エスピーアウルミニ(初田製作所)	→			

機種選びにあたっての注意点

水道連結型スプリンクラーは、

- 消火を目的としているのではなく、火災を抑制して避難時間を確保することを目的としているため、避難対応がある程度できる人が多いホームに適しています。

○水道管の太さによっては、管に直結できない場合には水槽＋ポンプの設置が必要です。ポンプを設置しなければならない場合、ポンプユニット設置のために 1m×1m程度の敷地が必要です。ポンプを設置できない場合はパッケージ型を選択するか、水道管を太くする工事をおこなうかの選択になります。高額な工事が必要になると思われます。

○国の施設整備費を使って設置する場合、ポンプユニット加算があります。設計料も必要となりますが、設計料は助成対象となりません。

○水道管の太さがギリギリの場合、ポンプを設置する必要はなくなりますが、内装制限があり、内装工事が必要となる場合があります。その場合、内装工事費用がかかることがあります。

パッケージ型自動消火設備は、

○火災の消火を目的とした消火剤を使用しています。火災の認識や避難が困難な人が多いホームに適しています。

○Ⅰ型(1,000㎡未満対応型)は、本体1台を屋内か屋外に設置し、各部屋に配管してヘッドを取り付けます。Ⅱ型は各部屋に本体を設置します。Ⅱ型は部屋ごとに設置する必要がありますので、必要な設置台数が多い場合(概ね13台以上)には、Ⅱ型の方がⅠ型より価格が高くなります。必要台数を考慮の上選ぶ必要があります。

○スプリネックスミニ(モリタ宮田)には、壁掛け式、収納設置式、床置き式の3種類あり、設置場所を部屋の中に確保できることが必要です。スプリネックスミニの設置にあたっては、設置する場所の壁材(天井は不問)が石膏ボード9.5mmを使用している内装仕上げ(準不燃)であることが要件となっています。準不燃を満たしていない内装仕上げの場合には、内装工事が必要となります。Ⅰ型を選択した場合には内装工事が不要いため、検討してみる必要があります。

○320タイプのⅡ型のエスピーアウルミニは床置き式です。内装制限はありませんが、本体が大型になるため、設置場所の確保や設置費用が問題になります。発売されたばかりで詳細についてはわかっておりません。

○国の施設整備費を使って設置する場合、パッケージ型自動消火設備にはポンプユニット加算がないため、法人負担分が大きくなる可能性があります。

いずれの場合にも入札価格にはかなり格差が出ています。グループホーム学会のメーリングリストなどで情報交換をしながら、適切な金額で工事できるようにしていく必要があります。

(室津滋樹 日本グループホーム学会)